



Anniversary
June 3rd 2010



新春知新

「品格と責任」

誇りと伝統の継承

信じる心が未来を創る

2010
社団法人 西宮青年会議所

2010年度 年頭のご挨拶

謹賀新年



社団法人西宮青年会議所
第60代 理事長

平田 裕之

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より、当青年会議所に対しまして、ご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。さて、社団法人西宮青年会議所は、皆様のおかげをもちまして、本年 60 周年を迎えることが出来ました。人間でいえば還暦となり、還暦とは起算点となった年の干支にふたたび戻ること。だからこそ今、創始の精神を呼び覚まし、事業で培った実績とノウハウを検証し、時代にあった青年会議所運動のあり方を打ち出していくことが必要とされています。その上にこれからの青年会議所運動の新たな礎を築きたいと思っております。現在私たちを取り巻く環境は、経済、政治、子供の教育等、どれをとっても厳しい状況にあります。そんな時代だからこそ、私たちが取り組むべき事は沢山あります。まず私たちが日本人としての品格と誇りをもち、英知と勇気と情熱を持って、若い力で行動しなければならない責任があるのです。そして、明るい豊かなまちをイメージし、実現させることを信じて一歩一歩着実に歩んでいく必要があります。この想いを胸に「品格と責任」～誇りと伝統の継承 信じる心が未来を創る～ を本年度のテーマとして掲げ運動を推進して参ります。一年はあっという間で過ぎ去ってしまいます。悔いのないように 60 年目の歴史を刻んでゆく所存です。今後共、更なる御各位のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、本年が皆様にとって幸多い年となります事を祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。



兵庫県知事

井戸 敏三

元気で安全安心な兵庫をめざして・・・。

新年あけましておめでとうございます。21世紀も10年目、今年は阪神・淡路大震災から15年の節目を迎えます。これを期に、改めて震災の経験と教訓を伝承する「伝える」「備える」取組とともに、創造的復興を成し遂げてきた兵庫の力を礎に、21世紀の成熟社会を先導する地域づくりを進めましょう。震災直後に540万人まで減少した人口も、昨年11月、560万人を超えました。今後予測されている本格的な人口減少社会が到来しても、地域社会が活力を失わないよう、兵庫の多様性を生かし、元氣な兵庫づくりに取り組まなければなりません。一つは、安全安心の確保です。台風9号の教訓を踏まえ、山の管理や谷筋の砂防対策などを徹底します。また、

新型インフルエンザ対策、緊急経済雇用対策に万全を期します。二つは、地域活力の増進です。ふるさと自立計画への支援、商店街の活性化、就農促進など、地域の努力を応援します。また、仕事と生活が調和する社会、女性や高齢者の元気を生かせる社会の実現をめざします。三つは、新時代の先導です。少子化、高齢化、地域偏在とともに進む人口減少など社会の変化に対応するとともに、市町、県、広域の各段階で、自主自立をめざした改革を進めます。変化の激しい時代だからこそ、柔軟な発想と行動力で、ともに元気で安全安心な兵庫をつくりましょう。

厳しさも 課題も乗り越え 行く先は 新たな地域の夢結ぶ途



西宮市教育長

真鍋 昭治

新年、明けましておめでとうございます。西宮青年会議所の皆様におかれましては、初春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、昨年には、西宮の未来を担う宮っ子たちの育成プログラムとして「西宮 T E R A K O Y A」を展開されるなど、西宮教育の推進にご理解とご協力いただいておりますことに厚くお礼申し上げます。今日、社会変革の中で、あらゆる分野で人の育成が大きな課題となっています。本市教育委員会としましても、次世代への責任を深く自覚し、総がかりの教育の推進に力を尽くしてまいりたいと決意しているところです。今年

の干支の寅は、草木が伸びはじめる縁起の良さがあり、動物の虎は、強力な邪気払いの象徴としても用いられています。夢に向かって大きく伸び、厳格に責任を持って事をなす、そんな1年でありませう、「明るい豊かな社会」の実現を目指す青年会議所の皆様の活動に期待いたします。



阪神南県民局長

中西 一人

新年明けましておめでとうございます。社団法人西宮青年会議所の皆様におかれましては、設立60周年という大きな節目を迎える新春を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。西宮青年会議所におかれましては、設立以来、地域の若きリーダーとして、青少年の健全育成、まちづくり、世界を結ぶ友情をテーマとした活動に熱心に取り組み、着実に成果を挙げてこられたことに敬意を表します。阪神南県民局では、市民主体の幅広い社会経済活動が展開する「市民文化社会」の形成をめざして、青年会議所をはじめ、幅広い県民の皆様との参画と協働のもと、魅力ある元気で安全安心な地域づくりをめざして、引き続き柔軟な発想と行動力で取り組んでまいりたいと考えています。今後とも、西宮青年会議所のさらなるご支援とご協力をお願いしますとともに、貴会議所の一層のご発展と皆様のご健勝を心から祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。



(財)西宮くすの木会
理事長

堀 隆裕

A HAPPY NEW YEAR!!

社団法人西宮青年会議所が60年目の青年会議所運動を素晴らしい役員の皆様を迎えられ、展開されますことを心よりお慶び申し上げます。私たち(財)西宮くすの木会は、「国際感覚豊かで優れた西宮っ子」を育成する為に、西宮とアメリカとの高校生との交換留学プログラムを柱に活動しております。西宮JC創立30周年記念事業として、設立された当財団も皆様のご協力のおかげで本年創立30周年を迎えることができました。当財団の活動は、西宮JCの皆様のご協力的なご協力なしには立ち行きません。これからも西宮の青少年育成に対し、お互いが力をあわせて邁進して参りましょう。半世紀を越える気が遠くなるほどの年月を、西宮市のまちづくり・青少年育成に捧げてこられた皆様に対し、深く敬意を表し、西宮JCがこれからも「明るい豊かなまちづくり」に、そして西宮の青少年育成のためにご活躍されることをお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。

西宮副市長との対談

お話の機会をいただきまして有り難うございます。今日の話題としましては西宮市の現在の取り組みと今後の展望、西宮青年会議所との協働の場についてお伺いしていきたいと思っております。(2009年12月4日)



「中核市・西宮」について

平田理事長：西宮市は人口も増加して、他市の人からも非常にいい町であるとよく言われます。現在も色々な取り組みをされておられますが、これからの構想や伝えたいことなどはありますか。

河野副市長：西宮市はご存知のように昨年の4月に中核市になりまして、いま2年目を迎えています。兵庫県では姫路市に次いで県内で2番目です。中核市になると権限委譲されますが、西宮市は早くから保健所設置市でしたので、中核市に移行して大きく様変わりしたということはありません。しかしながら町の格といいますかステータスが若干上がって、市民の人にも喜んでいただけているのかなと思っています。こんな思いで2年目を迎え、これからますますサービス向上を目指して頑張っていくつもりです。人口も48万1000人を超えて、県内でも一番伸びています。子育てするなら西宮をコンセプトに「子供たちの笑顔が輝く町」というのが、山田市長が目指しているものです。一部には保育所の待機児童の問題とか、負の部分指摘される先生方もいらっしゃいますけれども、やはり町の発展にとって人口増加・住む人が増えることが不可欠ですので、その意味ではいいのかなと喜んでいただいております。青年会議所のスローガンに品格とありますけれども、西宮市のスローガンにも品格という言葉が入っています。物質的な豊かさよりも心の豊かさを求める時代、成長拡大から質が問われる時代に、環境や町並み、景観、文化、緑など町の雰囲気、都市の品格を高める市策が、町づくりの重要な要素になっています。ものから心、そしてハードからソフトという形のなかで、中核市になりましたので都市の品格を高め、新しい町づくりを目指す時期に入ってきたという感じは受けています。

平田理事長：細かい部分を言い出すと足りていない部分はあると思いますが、何年前から考えますと、ある程度、環境的には満たされているように感じています。人口が増えると西宮のことをあまり知られない方々も増えてきます。青年会議所では、てらこや事業など親子と一緒に学べるような体験学習、町づくり事業を展開して、西宮の町の魅力を発信していく必要があるのではないかと考えながら活動しております。

河野副市長：特に西宮の場合、若い子育て世代の方が増えていますから、保護者の方々、特にお母さんなどは子供を通じて交流を広めていきたい。また市外から転入された方々は西宮市を知りたいという要望があると思いますので、てらこや事業などを通じてお友達とつながり西宮の魅力を知っていただくという意味では、非常に有意義ではないかなと思います。子供たちの関係でいきますと、西宮の場合は古くから人形浄瑠璃が有名で、昨年人形劇まつりを開催させていただきました。西宮では5月9日に6つの会場で一斉にやりのべ2500人の来場者がありました。これからこの事業は毎年続けていきたいと考えています。この人形劇まつりが定着すれば5月9日は子供たちの中心としたまつりの日にしたいという構想があります。

「キッザニア甲子園・阪急ガーデンズ」について

平田理事長：TVでも紹介されたキッザニア甲子園と阪急ガーデンズの現況はいかがでしょう。

河野副市長：ご存知のようにキッザニア甲子園はかなり人気がありまして、予約が取れないようなお話もありますね。阪急ガーデンズは新聞にも出ているように、予想よりは来場者は減っていますが、売上の目標は達成したとありましたね。また西宮北口は競輪場の跡地にあの建物できて、芸術文化センターや甲南大学のキャンパスも相まって、完全に西宮の「へそ」になってきたという感じがしますね。高架が平成23年3月には完成しますので、交通がよくなりますね。



平田理事長：西宮は大学もたくさんありますし、これから学校で西宮を体験された方も西宮で働いていけるような環境づくりなどでできれば非常にいいのかなと思っています。学生さんとのコラボレーションした事業も青年会議所で考えて、もっと西宮の魅力を若い世代の人たちにも学んでいただけたらと思っています。

「さくらやまなみバスの運行」について

平田理事長：南北をつなぐさくらやまなみバスについて、お話を聞かせてください。

河野副市長：市長が公約で掲げていた山口地域の悲願の政策がようやく実現できました。じつはこれについては、昨年に試験運行をやりまして、その結果をふまえて2009年4月から本格運行しているんですね。3ヵ月前の延べ1日あたりでいきますと570人実績が、今は576人。明るい兆しとしては有馬温泉との接続が始まりまして、有馬温泉の組合などにも力を入れていただいています。それから私どもはさくらやまなみバスを通勤・通学、そして観光に使っていただくことを目標としています。また西宮市はさくらやまなみバスはただ単に北部と南部を結びつけるということではなくて、北部の活性化を図るということが目的です。たとえば山口のだんじりであるとか、あるいは自然・あるいは観光的なふるさとの良さなんかを発掘して南の人に来ていただくという仕掛けができないかなと思っています。今年の取り組みとしては農業体験教室を開催して、その参加者は必ずさくらやまなみバスに乗ってくださいというPRをして1年目を迎えています。こういった事業をこれからもどんどん広めていきたいなと思っています。ぜひこれからは青年会議所の方もやまなみバスを活用した何か行事も考えていただけたら私どもうれしいです。

「行政の観点から」

河野副市長：2009年4月に「西宮市参画と協働の推進に関する条例」がスタートしました。その初めての試みとして、市から色々な情報を発信するとともに、市民の方の意見をお聞きしようということで、西宮タウンミーティングを開催しました。出席した局長からは、十分手ごたえもあり、市民の声も聞こえたという意見があり、市民の方からは市の姿勢がよくわかったということと、同時に地域の課題を直接訴えてその場で回答もいただいたと、非常に双方向のコミュニケーションができて非常に喜んでいただきました。これはこれからも続けていこうかということで考えています。

平田理事長：2007年に町づくり事業の一環の中で、西宮青年会議所の考える提言・提案について当時の理事長が市長さんとお話させていただいたことがあります。意見交換することは、新たな考えを生み出すいい機会になると思います。



「ゆるきゃら協働事業」について

平田理事長：私が実現していきたい企画のひとつに「ゆるきゃら」があります。町の魅力を発信していくツールとして西宮市と協働して提案していきたいと考えています。

河野副市長：じつは西宮市にも平成13年から若手の職員で作った政策研究会「自由の大地」というのがありまして、勤務中に時間を保証して色々な課題に沿って提案を出してもらおうという。その課題のひとつにゆるきゃらというのがあります。2年ほど前には、えびすくんとか酒づきんちゃんなどの提案をもらったんですけど、具体的ではなく内部的なものですけどね。西宮市と青年会議所が一緒になって作ろうというご提案であれば、その話に乗って協働で考えていくことはいいと思います。こちら若手の素地がありますから役割分担をして、若い市の職員と青年会議所のメンバーとで提案していけたらいいですね。

「西宮青年会議所に求めること」

平田理事長：最後になりますが、今後の西宮青年会議所の活動について一言ご意見をいただけますでしょうか。

河野副市長：今日もお話する機会をいただけたことをうれしく思っています。ゆるきゃらの件も含め、皆さまも意見を出していただいて、行政からも皆さまに期待することをお伝えして、その中で連携してやっていくということがすべてかなと思います。コミュニケーションの中で、お互いに思うことを理解し合い、共通できるところで進めていく。これが双方にとっていいことかなと思います。特に皆さま若い豊富な知識や人脈など色々なものをお持ちですから、それを我々の方も活用させていただくというそういう意味からもこうした話し合いというのは有効かと思えます。もっと町づくりのイベントにもご参加いただいたり、機会があれば職員との意見交換の場を持てたらいいですね。行動力を生かしていただいて、町づくりにぜひともご活躍いただきたいと思っています。「本日は、どうも有り難うございました。」



2010年度事業予定

例会・事業予定		その他事業・活動	
1月	1月度例会及び新春賀会 総務委員会	7月	7月度例会 地区会員大会準備特別委員会
	京都会議(京都)		近畿地区会員大会(泉佐野)
2月	定時総会	8月	サマーコンファレンス2010(横浜)
	2月度例会 西宮てらこや実践委員会		記念事業: 西宮TERAKOYA
3月	OB総会	9月	8月度納涼例会 国際交流委員会
	3月度例会 まちづくり推進委員会		第35回にしのみや市民祭り
4月	兵庫ブロック協議会 公式訪問	10月	兵庫県知事との懇談会
	4月度例会 広報事務局		兵庫ブロック会員大会(丹波)
5月	会頭訪問	11月	9月度例会 西宮てらこや実践委員会
	5月度例会 拡大研修委員会		10月阪神7青年会議所合同例会
6月	憲法タウンミーティング	12月	全国大会(小田原)
	60周年記念式典及び及び祝賀会		11月度例会 拡大研修委員会
	記念事業: 姉妹JC香港ドラゴンJCとの姉妹締結		JCI世界会議(大阪)
	財団法人西宮くすの木会30周年記念		阪神南泉民局との合同事業
	クアラルンプールJC姉妹締結40周年記念		12月度卒業例会 国際交流委員会
	ASPAC(シンガポール)		定時総会



西宮商工会議所 会頭との対談。

(2009年12月21日)

西宮商工会議所 会頭

辰馬章光氏



平田理事長：私たちは西宮市でまちづくり活動をしてまいりましたが、本年 60 周年を迎えます。今後、西宮青年会議所がどのように諸団体とコラボレーションしながら運動していく上で、どの様なことを望まれるのでしょうか。お話をいただければと思います。

辰馬会頭：にしのみや市民祭り、酒蔵ルネッサンス、名刺交換会などでもいろんなところで一緒にさせていただいてありますが、マンネリにならないように工夫していきたいですね。特に西宮市内だけではなく市外から来て楽しんでもらい、元気の出るような西宮市であってほしいと思います。

平田理事長：西宮は住みたいまちとして、環境面や文化面においても市民のニーズに合っている町なので人口も増加しています。より西宮市に興味を持ってもらうしかけとして、にしのみや市民祭り、酒蔵ルネッサンスなど西宮が持っているコンテンツを上手に PR するべきです。

辰馬会頭：生活をしているけど、大阪・神戸と働きに出ている人への PR も考えないといけません。そのような人にも興味を持ってもらえるよう、広報の仕方つまり、いかに人の心をつかむ PR をするのが大切になってくるのではないのでしょうか。

平田理事長：時代も変わっている中で、ひとつの団体だけが頑張っても限界があるように思えます。行政、商工会議所、学校、青年会議所と連携してみんなでまちづくりを行っていかないとなりません。様々な場所で様々な事業が開催されている中、諸団体の方向性を集約したものを作り上げていくべきだと考えます。提案として、西宮のキャラクターを創ったらどうでしょうか。西宮市の副市長と対談をする機会があったのですが、西宮のキャラクター制作実行委員会の立ち上げもいいのではと考えているそうです。兵庫県では「はばたん」がマスコットとなり、現在も活躍しています。みんなが盛りたてていける「ゆるキャラ」を商店街のイベントや祭りなどのいたるところで登場してもらうことで、まちの活性化に繋がるのではないかと考えています。

辰馬会頭：明るい社会に、最近の暗い社会に晴れ間を作ってほしいです。最近では経済合理性だけで切り捨てられることが多いように思えてなりません。文化・教育・科学技術を豊かにするという発想は削ってほしくないですね。

平田理事長：西宮青年会議所では「宮っ子育てプログラム」の一環として、てらこや事業に力を入れています。西宮市内の 4 大学の大学生に協力を頂き、学生とのコラボレーションで、市内の小学生を対象に座禅、講和、精進料理を 1 泊 2 日で行いました。短い期間ではありましたが、礼儀や感謝する心など、学校では教えてもらえない事を学んでもらいました。この事業に子供たちの親にも参加してもらい、ディスカッションする時間も作りました。親の気づかない子供の姿も見ることができたという評価を頂きました。2010 年度も事業展開していきたいと考えております。

辰馬会頭：最近個人権利が最近突出しているように思えます。人と協力して何かをやる力が日本人には欠けているのではないのでしょうか。

平田理事長：2010 年度の西宮青年会議所のスローガンとして「品格と責任」をあげています。日本国としての品格、一個人としての品格、を考え、自分で品格を持って生きていくことが責任となり、それを若い人に伝えていかないとなりません。そのスローガンのもと、てらこや事業にて和の精神、感謝の心、謙譲の美德を再認識し、心を豊かにしてゆくきっかけを作ってまいります。

辰馬会頭：この変化の著しい時代です、守っていくもの・削るべきものがあると思います。一つの基準で物事を判断するのではなく、時代の流れをみて、バランス良く活動をしていってもらえばと思います。

平田理事長：明るく豊かな社会を作り上げるために、さまざまな取り組みを行ってまいります。西宮青年会議所という団体を通じて市民の方に楽しんでもらいたい。その為には、まずは自分たちが楽しめるよう、理事長として 1 年間という限られた時間ではありますが、与えられた環境を 120% 使い切ってやります。本日はありがとうございました。



2009 年度 西宮青年会議所の活動

1月



新春賀会



京都会議 安里会頭と共に



講師例会 100%例会 達成!

2月



北方領土返還署名活動

3月



3月度例会



EWC 表彰

4月



4月公式訪問



青春の居酒屋

5月



5月理事会

6月



フットサル



6月長野大会 ドラゴン JC

7月



近畿地区協議会 水口大会



函館姉妹締結



くすの木会学生見送り



サマーコンファレンス 麻生元首相

8月



市民祭り



公開討論会



甲子園人文字



佐用町ボランティア



納涼例会

9月



井戸知事との懇談会



てらこや

10月



阪神7合同例会



全国大会

11月



11月度例会

12月



研修事業 青山繁治氏



副市長対談



理事長交代式



卒業例会



西宮神社にて

創立60周年を迎えるにあたり



60周年 実行委員長

鳴見 裕 貴

「未完成経済人として、空論よりもあらゆる面に於いてまず実践にあって、尊き体験こそ経済青年の将来を開拓する正しい道なり。」昭和25年6月3日に執り行われた西宮市民会館での発会式に於いて、初代理事長 松本国春先輩の力強い宣誓と共に、西宮青年会議所は設立されました。設立当初の昭和25年と言えば、戦後の傷跡も癒えぬまま日本という国そのものが復興に向けて日々の生活を暗中模索していた時代であったことは想像にたえません。そんな自分自身の生活もままならない時代において、地域のために活動するこの団体を立ち上げられたことはまさしく我々の誇りとするところがあります。以来60年、その時々時代の背景に形を合わせながら西宮青年会議所は活動を続けて参りました。年度ごとのまちづくり事業はもとより、外部団体として1980年には「財団法人 西宮くすの木会」を設立し、「文教都市」西宮に寄与すべく国際感覚豊かな青少年の育成を今日も続けております。また2000年には「西宮をPRする会」を設立し、地域の貴重な財産である甲子園のPRに努めて参りました。その他にも、西宮市民まつり実行委員会の立ち上げに大きく関わるなど、地域に根差す団体として着実にその足跡を残してきたと自負しております。

今後の活動方針として、いつの時代にも当てはまることかもしれませんが、健全な青少年の育成は明るい豊かな未来を築いていく上で必須であると考えます。戦後の目覚ましい経済復興に反して、もしかしたら何処かに置き忘れてしまったのかもしれない古き良き日本の文化や世界に誇れる日本精神の継承に努めて参りたいと思います。また、西宮青年会議所は海外JCとの姉妹締結など古くから世界に目を向けて参りました。今後ますます世界との距離が縮まるであろう将来に向けて、諸外国との友好関係を深めていくための草の根運動も推進していかなければならないと考えております。設立より60年を経た今、創始の精神を受け継ぎ、いつの時代も変革の能動者たらんとする我々青年会議所メンバーとして、まずは青少年育成と国際交流に基軸を置いた60周年記念事業を展開しながら、しっかりとした形で未来に残る実績を今後も積み重ねて参りたいと思います。

60歳という年は人生に例えるなら還暦でございます。これだけの長い歴史を積み重ねることが出来たのは、むしろ諸先輩方の努力の賜物でございますが、加えて地域行政に携わる方々や地域で活動する諸団体の皆様の深いご理解と温かいご支援のおかげでもございます。60年という節目の年に、これまで我々の活動を支えて下さった皆様方に感謝の気持ちをお伝えする場として、60周年記念式典を開催致します。また、未来に向かって運動を展開しようとするときには、過去をしっかりと検証し、時代の流れを見極めて、周囲と協働しながら活動を進めていく必要があると思います。60周年記念式典においては、共に西宮の未来を考える者同士、情報を交換し合い、また有意義な意見交換の場となりますことも期待しておりますので、皆様のご臨席を心よりお待ち申し上げます。

いまだ先行きの見えない不安定な経済状況と混沌とした社会情勢が続く時代ではございますが、そんな時代にあっても若い経営者が地域貢献を考えるようになったとき、また地域に住まう皆様が西宮の未来を思い描くとき、心から西宮の街を愛し、そして共に活動できる団体として、今後も社団法人 西宮青年会議所は存在し続けたいと思います。

これからもこの地域のため、明るい豊かな西宮を築くため、我々は青年としての英知と勇気と情熱をもって邁進して参ります。



60周年記念式典・祝賀会

【日時】 2010年6月12日(土)大安

【会場】 ノホテル甲子園 (式典：向陽の間 / 祝賀会：鳴尾の間)

お問合せ先



社団法人 西宮青年会議所
Junior Chamber International Nishinomiya

兵庫県西宮市塚塚町2-20 〒662-0854
TEL 0798. 33. 1615 FAX 0798. 26. 5202

【WEB】 www.nishinomiyajc.or.jp
【MAIL】 info@nishinomiyajc.or.jp